

令和元年秋期 六浦地区推進連絡会議事録

1 日時

令和元年 10 月 17 日（木） 19：00～20：30

2 場所

瀬戸町内会館

3 参加者 47 名

（地域側）自治会等地域団体関係 19 名

（大学関係）

横浜市立大学 2 名

（支援チーム、その他行政側）

区役所 4 名

支援チーム 13 名

4 意見交換要旨

（1）開会の挨拶（興津 地区連合町内会・地区社協福祉協議会 会長）

（2）住み慣れた地域で いつまでも 元気に暮らし続けるために（國原 区長）

（3）出席者の紹介

地域、大学、区、支援チームの各自自己紹介。

（4）第3期金沢区地域福祉保健計画 地区別計画上半期振り返り

※地区別計画策定・振り返りシート参照

①計画の取り組み状況について

<地域でいきいき楽しい老後>

- ・高齢者の見守り
- ・高齢者お花見会
- ・敬老会
- ・高齢者居場所づくり
- ・学童とのふれあい給食会
- ・学童とのふれあいタイム
- ・昔遊びの会



中村 地区社会福祉協議会
福祉活動第1部会委員長

川見 地区社会福祉協議会理事

<楽しい仲間づくり>

- ・研修会
- ・社会見学

中村 地区社会福祉協議会 福祉活動第1部会委員長

<子育てしやすい環境づくり>

- ・子育て支援活動
(ハイハイくらぶ)
- ・むつりんぴっく

川見 地区社会福祉協議会理事

<子どもから高齢者までみんなで集まろう>

- ・春季ハイキング
- ・秋季ハイキング
- ・お祭り

小池 地区社会福祉協議会 福祉活動第2部会委員長

<安全・安心なまちにするためにみんなで力を合わせる>

- ・社会を明るくする運動
- ・福祉講座
- ・地域ケア意見交換会

村田 地区社会福祉協議会 総務企画委員長

- ・子どもの見守り . . .

福島 地区連合町内会会計
・地区社会福祉協議会副会長

- ・防犯パトロール . . .

小林 レディース防犯隊

- ・災害時に備えた取り組み

. . . 渡邊(末) 地区連合町内会・地区社会福祉協議会 副会長

- ・広報誌 『社協むつうら』『むつうらたより』の発行

. . . 中川 地区社会福祉協議会 広報啓発委員会委員長

②報告についての意見交換

(中村 地区社会福祉協議会 福祉活動第1部会委員長・地区民生委員児童委員協議会会長)

地域の課題として、お話をさせていただきたい。

民生委員・児童委員について、地区全体では23名を選出しているが、そのうち7名はレイディアントシティ自治会から選出してもらっている。しかし、レイディアントシティ自治会は六浦地区連合町内会及び六浦地区社会福祉協議会に入っていないため、レイディアントシティの民生委員・児童委員の7名は活動に参加して

いない。この問題は、長年の課題であるため、簡単には解決できるものではないが、最近、レイディアントシティのイベント（バザーフェスティバル）に各自治会町内会長が招待されており、顔つなぎができるのではないかと考えている。さらに、地区社会福祉協議会を知りたいと話していたので、金沢区社会福祉協議会を通してレイディアントシティとの話をする場を設けて、連携が取れるように少しでも進展できれば良いと思っている。

（興津 地区連合町内会・地区社会福祉協議会 会長）

レイディアントシティの問題は、地域の古くて新しい課題となっていて、色々な事情があって、いずれの地区連合町内会にも所属していない状態となっている。ただ、地域の民生委員・児童委員やスポーツ推進委員、青少年指導員などの方々の活動の中で長年働きかけた結果、レイディアントシティとして部分的に参加してもらっている現状になった。

少しずつ切り崩している現状ではあるが、レイディアントシティの住人が地域の様々な行事に参加できない状態でもある。六浦地区の住民は自治会町内会費を払っていて、行事は自治会町内会費で成り立っているのだが、1つの地域として繋がられるところは、少しずつでも繋いでいけたら良いのではないかと考えている。

区へも担当レベルではお願いしており、引き続きお願いしているところである。

（渡邊（末） 地区連合町内会・地区社会福祉協議会 副会長）

一連の台風等の影響により、各種避難所へのペットとの同行避難が問題となっている。地震と土砂崩れでは対応が違うと思うがどうなっているのか質問したい。

（國原 区長）

避難所におけるペットへの対応については、土砂崩れの対象世帯を対象に、今までの台風では避難所を5か所開設していた。例年10名程度のところ、前回の台風時は46人避難してきた。マスコミの呼びかけが大きく、また、台風15号のイメージが残っていたため、今回は435名避難してきた。関東学院大学だけで198名だった。

その中で、避難所にペットが同伴できるのかという電話での問い合わせが多数あった。台風の場合、短期間（数日）の避難となるので、基本的には断ることとし、同伴して避難してきた場合には、備蓄してあるケージに入れることとしていた。今回のような約400人を避難所に受け入れる際には、アレルギーを持つ人も避難してくるので、ペットの問題は出てくると再認識した。特に、地震の際には、長期間の避難生活になる可能性があるので、課題であると思っている。

(桑川 地区社会福祉協議会事務局長)

第3期地域福祉保健計画の振り返りについては、頂いたご意見も参考に、今後
も考えていき、第4期の策定につながるよう進めていけたらと思う。

<その他意見交換・情報提供等>

(柳田 地区連合町内会・地区社会福祉協議会 副会長)

金沢八景駅裏側の山が荒れてきているようで、枝が折れている木が多い。台風の
時にも、木が折れてしまい、その木や枝が飛んできて大変だったという住人がいた。
市が所有している山なので、今後対応について検討していただければと思う。

(國原 区長)

山については、公園に関するところで環境創造局か、自然植生・文化指定で教育
委員会が関係していると思う。従って、倒木等については、各所属へ申し入れを行
おうと思う。

1つ懸念されることが、貴重な自然植生として文化財の価値があるということな
ので、全て伐採するということはできないのでご留意頂きたい。

(富川 地区連合町内会事務局長・地区社会福祉協議会 副会長)

民生委員・児童委員による見守り事業では、2人世帯は見守りの対象外であるが、
高齢者夫婦が2人で住んでいて、妻が施設に入った後に、家に残った夫が亡くなっ
てしまうと、家を管理するものがいなくなってしまう、空き家状態になってしまう。

台風の際に、空き家状態になった家の敷地内に車庫の屋根が飛んでしまい、取り
に行こうとしたが、連絡先が誰もわからないため、取りに入ることができなかった。
連絡先を調べようにも、個人情報のため、どこも教えてもらえないので、このよう
な場合どうしたらよいか。

警察にも相談したが、立ち入ることはできないとのことだった。何か対応策はあ
るか。

また、誰が管理しているか全く分からない場合、どうしたらよいか。

(國原 区長)

状況が分からないので、一概には言えないが、空き家対策特別措置法というもの
がある。その家に誰もいないことが明らかな場合、所有者の固定資産税情報を見る
ことができる。もし対象になれば、1つの方法になり得るのでご相談いただければ
と思う。

(渡邊 地区連合町内会・地区社会福祉協議会 副会長)

地域の中でも少子高齢化が進んでいる中で、民生委員・児童委員、青少年指導員、スポーツ推進委員、消防団員といった役割の年齢制限が厳しいと感じている。昔の60代や70代よりも、今の60代や70代で元気な人が多い中で、役割を歴任された方がまだまだ続けられるのに、年齢制限でできなくなってしまう。行政からは次の人を選出してくださいとしか言われず、非常に大変な思いをしている。願わくば、会長が認めた場合は1年延長を認めたり、そもそもの年齢制限を上げる等の対応の検討をお願いしたい。

(國原 区長)

既に様々なところから同様の声を頂いており、区民意識調査の中でも、元気な高齢者が増えていることが分かることから、全体的にそのような傾向にあることは把握している。従って、年齢制限を上げる方向で、柔軟な対応を取れるようにして欲しい旨を局に申し入れている。但し、消防団に関しては、出動時のケガ等もあるので一概には言えないが、それ以外の役割については、柔軟に対応できるよう申し入れている。

(福島 地区連合町内会会計・地区社会福祉協議会副会長)

今回の台風19号では、多くのメディアが早めに避難するよう報道しており、高齢者の方から、「侍従川が氾濫した際には、どこに避難すればよいのか」という問い合わせが多くあった。その際、「避難所が開設されていないので、自分の家で待機するよう伝える」ことしかできなかった。

これからも、大雨や台風で川が氾濫することが考えられるなかで、今後同様の問い合わせがあった場合、どのように対応したらよいのか。

(國原 区長)

宮川・侍従川付近についても、避難所は指定している。今回の台風に関しては、水位の増加をみて、避難所を開設する必要はないと判断したので、開設しなかった。もし、開設するようであれば、緊急時情報システムを用いて、各自治会町内会長に周知する。

この5年間で、水位の上昇で開設の必要が出てくる事案はなく、今回も該当しなかった。あくまでも、河川の氾濫については水位を見て判断することになる。開設した5か所の避難所というのは、崖崩れ・土石流の危険性が高まったため開設されている。

金沢区は避難者が433名だったが、全市8833名が避難しており、崖崩れによる開設よりも河川の氾濫による開設が多かった。幸い金沢区は、開設するほどの河川の氾濫等はなかったという結果だった。

(柳田 地区連合町内会・地区社会福祉協議会 副会長)

今回開設されたのは5か所だが、エリアによっては、遠い場所の避難所しか開設されていなかったため、近くで避難所が開設されないのかという問い合わせがあった。今回のような非常に大きい規模の災害の場合、5か所以上開設する可能性はあるのか。

(國原 区長)

報道では盛んに避難するよう呼び掛けていたが、例えばマンションでは避難するほうが危険である。その線引きが難しいと思う。また、今回の避難者の多くは、福浦・幸浦の海の波を恐れて避難していた。加えて、台風15号で屋根の一部が損壊して、避難してきた人もいた。

様々な要因により、避難する基準が変わってくるので、今回の台風で得た大人数の避難者への対応といった経験を活かして、今後どのように対応していくか区役所で検討していきたいと思っている。

ただ、基本的には、危なくなければ避難しないほうが良いということもあるので、そのあたりの判断は難しいと感じている。

(柳田 地区連合町内会・地区社会福祉協議会 副会長)

今回の台風では、今まで注目されなかった「風」が大きな影響を与えた。着目すべきポイントが変わっていると感じている。

(國原 区長)

61年前の狩野川台風の時には約1200人亡くなっており、今回もそれに匹敵したが、現在は堤防の性能が上がっていることもあり、被害が比較的小さくなっているのだと思っている。

(富川 地区連合町内会事務局長・地区社会福祉協議会 副会長)

今の話に関連して、崖崩れと水害の受け止め方が、住人によって異なるため、有事に避難すべきか留まるべきか分からず、避難する人と避難しない人ができてきていた。

PRが足りないのかもしてないと感じており、正確な情報をみんなに分かるようにしてほしいと思う。

(6) 閉会の言葉 (渡辺 (恵) 地区連合町内会・地区社会福祉協議会 副会長)

以上